

2013年6月17日

渋谷駅周辺地区における都市計画の決定について

東京急行電鉄株式会社
東日本旅客鉄道株式会社
東京地下鉄株式会社
道玄坂一丁目駅前地区市街地再開発準備組合
東急不動産株式会社

日本を代表するターミナル駅である渋谷駅を中心とした渋谷駅周辺地区は、2005年12月の都市再生緊急整備地域指定や「渋谷駅中心地区まちづくり指針2010（平成23年3月渋谷区策定）」等のまちづくりの方針に基づき、渋谷駅街区土地区画整理事業および鉄道改良事業と連携した抜本的な再開発について、2012年4月開業の渋谷ヒカリエを皮切りにその具現化を進めてまいりました。

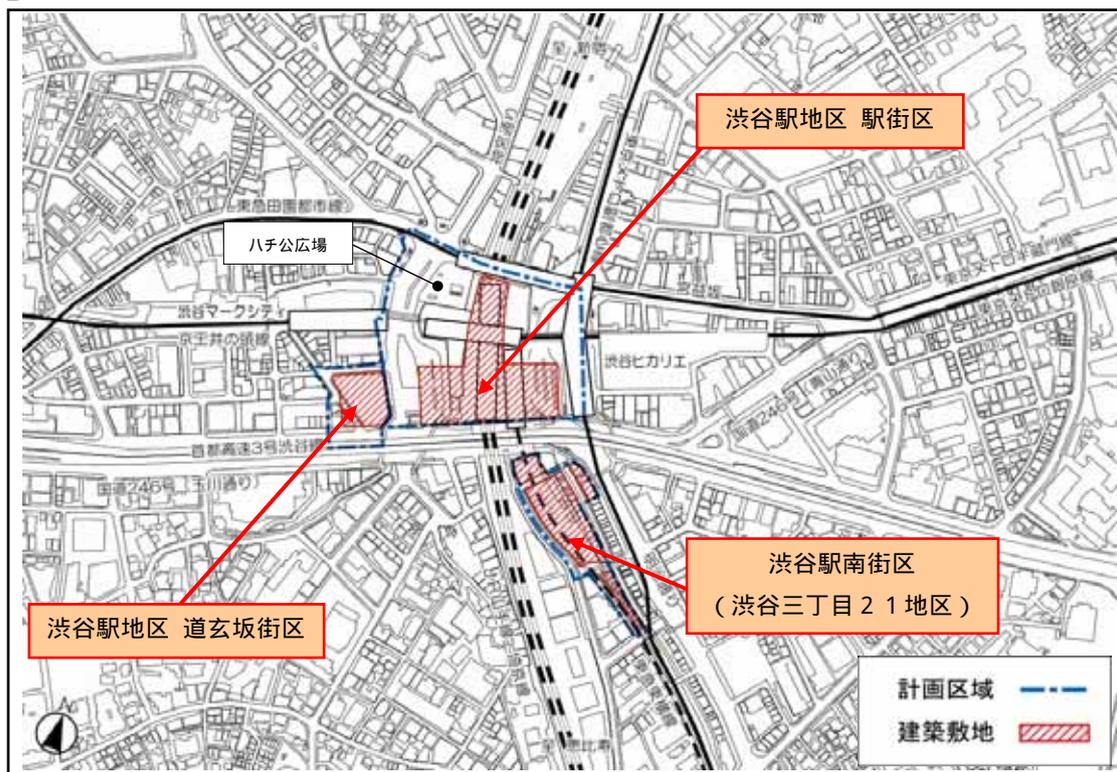
2013年1月23日に都市再生特別措置法に基づく都市再生特別地区の都市計画提案を行なった「渋谷駅地区 駅街区開発計画」「渋谷駅地区 道玄坂街区開発計画」「渋谷駅南街区プロジェクト（渋谷三丁目21地区）」の3つの事業に関し、本日、東京都において都市計画決定がなされましたのでお知らせいたします。

これらの事業は今後、開発を具体化する段階に移行し、渋谷駅南街区プロジェクトが2017年度、道玄坂街区開発計画が2018年度に開業を予定しております。その後、鉄道改良事業と一体的に行う駅街区開発計画は、東棟が2020年、中央・西棟が2027年と段階的な開業を予定しております。引き続き、魅力ある渋谷のまちづくりを進めることで東京そして日本の活性化を目指してまいります。

道玄坂一丁目駅前地区市街地再開発準備組合は、2008年7月に設立され、東急プラザ渋谷及び隣接する街区との一体的な再開発の検討を進めて参りました。東急不動産株式会社は、同準備組合に地権者及び事業協力者として参画しております。

以上

計画地



完成イメージ



八チ公広場付近上空より恵比寿方面を望む

2013年6月17日

渋谷駅地区 駅街区における都市計画の決定について

東京急行電鉄株式会社
東日本旅客鉄道株式会社
東京地下鉄株式会社

渋谷駅地区駅街区においては、東京急行電鉄株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、東京地下鉄株式会社が2013年1月23日に都市再生特別措置法に基づく都市再生特別地区の都市計画提案を東京都知事に対して行っておりましたが、本日、東京都において都市計画決定がなされましたのでお知らせいたします。

当街区は、本決定をもって開発の計画段階から、具体化の段階に移行してまいります。

計画建物は渋谷駅周辺地区では最大級となるオフィス(貸床面積約7万㎡)と商業施設(店舗面積約7万㎡)をあわせもち、世界から常に人と注目を集め続けるまちを実現する中心的役割を果たしていきます。同時に東西駅前広場をつなぐ自由通路の拡充や、アーバン・コア(エレベーターやエスカレーターにより多層な都市基盤を上下に結び、地下やデッキから地上に人々を誘導する、まちに開かれた縦軸空間)の整備、駅街区と宮益坂上方面、道玄坂上方面をつなぐスカイデッキの整備、災害時に帰宅困難者を受け入れる一時滞在機能の整備などを行い、全ての利用者にとって、安全で快適なまちの実現を目指します。

また、建物の低層部や広場の整備においては世界的に高い評価を受けている隈研吾建築都市設計事務所およびSANA A事務所をデザインアーキテクトとして起用するなど、大規模ターミナル駅を中心とする都市再生のモデル的プロジェクトとなるとともに、渋谷の活性化のみならず、日本全体のますますの発展につなげてまいります。

本開発計画の概要は別紙の通りです。

以上



東急電鉄

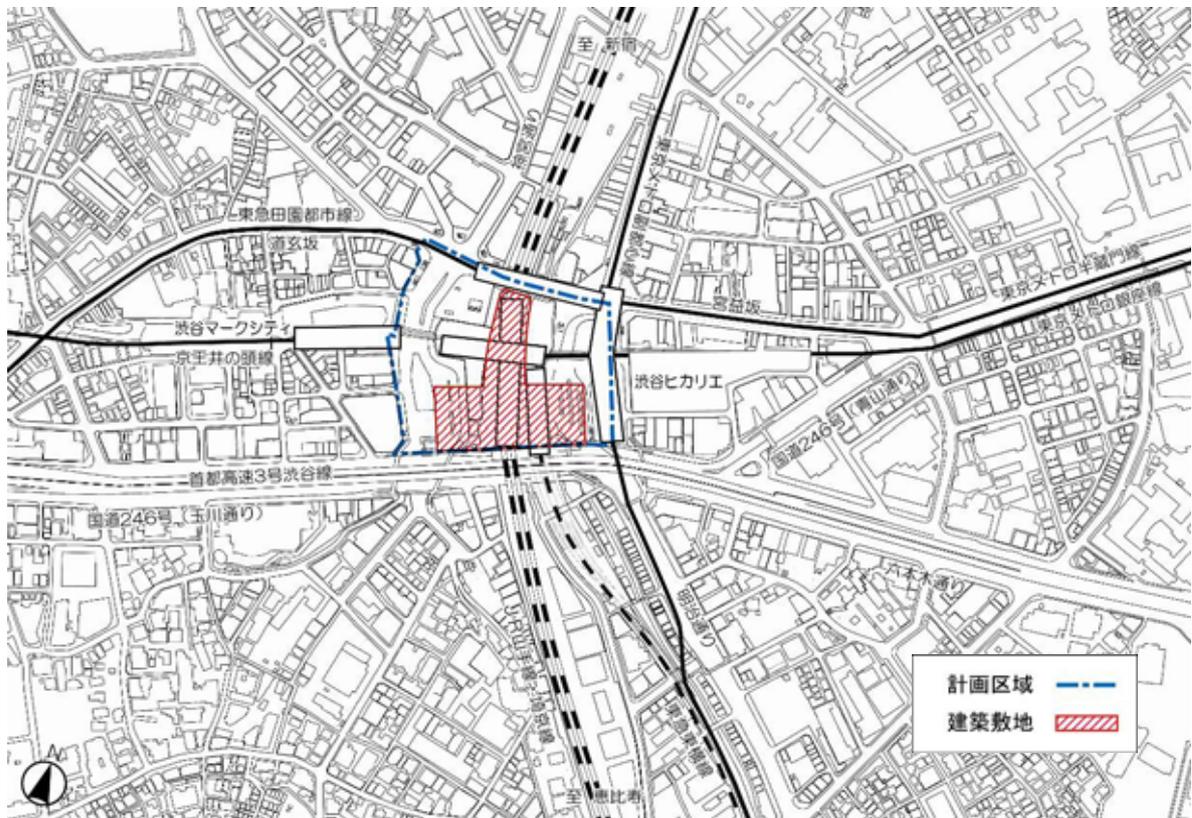


(別紙)

計画建物の概要

事業主体	東京急行電鉄株式会社 東日本旅客鉄道株式会社 東京地下鉄株式会社
所在地	東京都渋谷区渋谷二丁目23番 外
用途	事務所、店舗、駐車場等
敷地面積	約 15,300㎡
延床面積	約270,000㎡
階数	東棟：地上46階 地下7階、中央棟：地上10階 地下2階、 西棟：地上13階 地下5階
高さ	東棟：約230m、中央棟：約61m、西棟：約76m
設計者	設計：渋谷駅周辺整備計画共同企業体（日建設計・東急設計コンサルタント・ ジェイアール東日本建築設計事務所・メトロ開発） デザイナー・アキテクト：日建設計、隈研吾建築都市設計事務所、SANAA事務所
予定工期	2013年度～2027年度
開業予定	東棟：2020年 中央・西棟：2027年

計画地

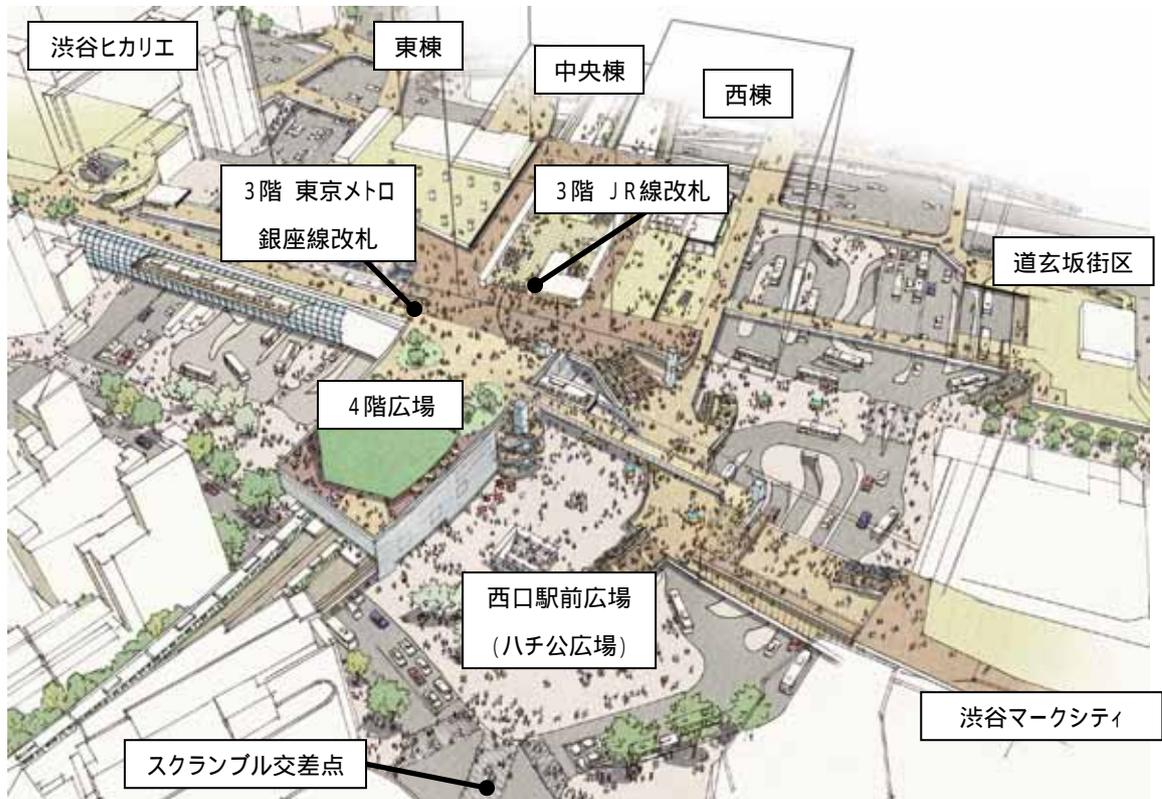


計画建物イメージパース（原宿方面より）



駅前広場およびデッキのネットワーク（スクランブル交差点付近上空より）

計画建物や広場をつなぐ多層の歩行者ネットワークを整備することで、まちの一体感を高めます。



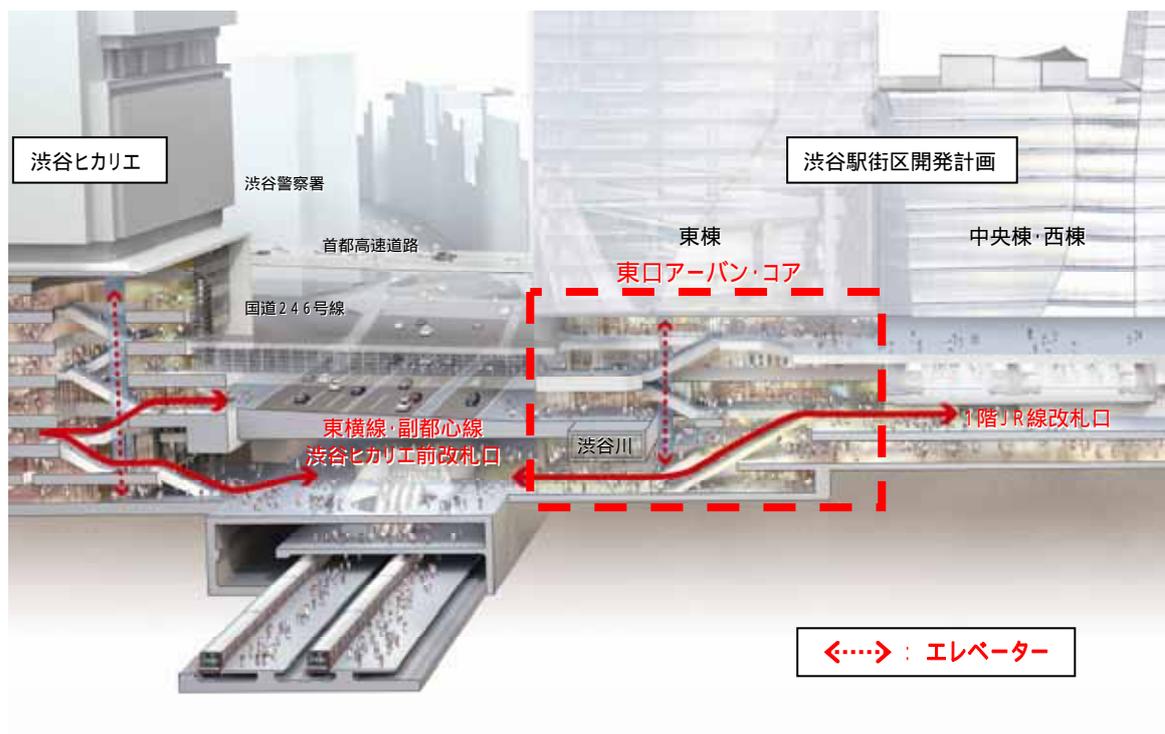
駅街区と道玄坂方面をつなぐデッキ（下記位置図の矢印方向を望む）

3階のJR線・銀座線改札と道玄坂方面をつなぐデッキを整備し、駅西側へ移動する歩行者の利便性を高めます。



東口アーバン・コア周辺の将来イメージ図

東急東横線・東京メトロ副都心線とJR線の乗換空間の集約化を図るとともに、バリアフリー動線の整備を行います。縦移動の空間として視認性が高く、まちに対して開かれた駅前のランドマークとなるデザインとします。



2013年6月17日

渋谷駅地区 道玄坂街区における都市計画の決定について

東急不動産株式会社

東急不動産株式会社（本社：東京都渋谷区、社長：金指潔）は、道玄坂一丁目駅前地区市街地再開発準備組合（以下、「道玄坂準備組合」という。）に地権者及び事業協力者として参画し、道玄坂準備組合の地権者と共に、東急プラザ渋谷及び隣接する街区における一体的な再開発の検討を進めて参りました。道玄坂準備組合が2013年1月23日に都市再生特別措置法に基づく都市再生特別地区の都市計画提案を東京都知事に対して行っておりましたが、本日、東京都において都市計画決定がなされましたのでお知らせいたします。

当街区は、本決定をもって開発の計画段階から、具体化の段階に移行してまいります。

当街区は渋谷駅西口の玄関口としての再生が期待されており、2018年度の開業に向けて、高層部にハイグレードオフィス、中低層部には世界から集客し街の賑わいに貢献する商業施設を計画しております。

1階の一部に空港リムジンバスの発着場を含むバスターミナルを導入して、渋谷駅街区土地区画整理事業及び渋谷駅地区 駅街区（ ）と一体的な交通広場の再編を行うと共に、渋谷駅から渋谷中央街等の西側の街や桜丘等の南側の街へとつながる地上部のネットワークや歩行者デッキの整備を行います。また、クリエイティブ・コンテンツ産業や外国系企業等を対象とした産業進出支援施設や、国内外の来街者を対象とした観光支援施設等の整備を行い、産業や都市型観光の拠点としての機能を高めることで、街の国際競争力を強化します。

当街区は、渋谷駅周辺地区における都市再生の一翼を担うプロジェクトとなると共に、世界中から常に注目を集めて人を惹き付けるエンターテインメント性あふれる街の実現に貢献します。地域が抱える課題の解決に取り組み、魅力ある渋谷のまちづくりを進めることで、東京そして日本の活性化を目指してまいります。

本計画は、近接街区である「渋谷駅地区 駅街区」と一体となった計画となっております。

本開発計画の概要は別紙の通りです。

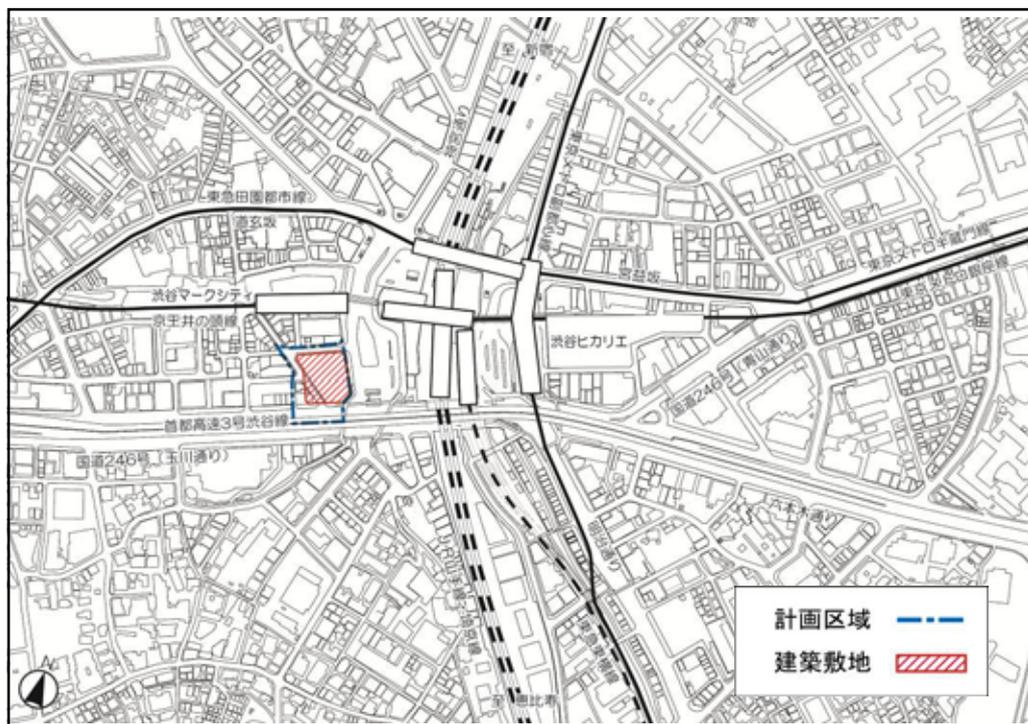
以上

(別紙)

計画建物の概要

事業主体	道玄坂一丁目駅前地区市街地再開発準備組合
所在地	東京都渋谷区道玄坂一丁目2番地・8番地
用途	店舗、事務所、駐車場等
敷地面積	約 3,330㎡
延床面積	約59,000㎡
階数	地上17階、地下5階
高さ	約120m
設計者	基本設計：株式会社日建設計 デザインアーキテクト：手塚建築研究所
予定工期	2015年度～2018年度
開業予定	2018年度

計画地



計画建物イメージパース

・原宿方面より



・渋谷駅西口交通広場より



渋谷駅西口交通広場の再編と快適な歩行者ネットワークの整備

渋谷駅西口の玄関口として、渋谷駅から西側の街(渋谷中央街等)へ、安全・幅広・まっすぐな地上部のアクセスを可能とするほか、当街区と駅施設とをつなぐ歩行者デッキを整備することで、桜丘方面を含めた西側の街へ立体的な回遊動線を形成します。

渋谷駅西口交通広場のイメージ(西口交通広場より道玄坂街区方面をのぞむ)



1階バスターミナルとアーバン・コアの整備

計画建物1階に、国際空港へのダイレクトアクセスを可能にする空港リムジンバス発着場を含むバスターミナルと共に、国内外の来街者をターゲットとした観光支援施設を整備して都市型観光拠点としての機能を高めます。また、地上部とデッキレベルの歩行者動線をつなぐ縦動線アーバン・コアを整備することで周辺の街へ回遊を促し、街の賑わい創出に貢献します。

1階バスターミナル及びアーバン・コアのイメージ(北東からのぞむ)



地域荷捌き施設と周辺区道の歩行者優先道路の整備

地域の課題となっている路上荷捌きの改善を目的として、計画建物地下に地域のための共同荷捌き施設を整備すると共に、地域の回遊・賑わいの中心であるプラザ通りや中央通りの一部を歩行者優先の歩きやすい環境に再整備することで、渋谷中央街等の賑わいに貢献します。

歩行者優先道路のイメージ(中央通り・プラザ通り交差点から渋谷駅方向をのぞむ)



外国企業等を誘引する屋上広場と一体的な産業進出支援施設の整備

計画建物には、クリエイティブ・コンテンツ産業等の起業家や日本に進出する外国企業等を対象とした小規模オフィスのほか、知的創造性を刺激する緑豊かな屋上庭園と飲食店舗を併設した産業進出支援施設を整備します。

屋上階のイメージ



2013年6月17日

渋谷駅南街区プロジェクト（渋谷三丁目21地区）に関する 都市計画の決定について

東京急行電鉄株式会社

東京急行電鉄株式会社（本社：東京都渋谷区、社長：野本弘文）が2013年1月23日に東京都知事に対して行いました、渋谷駅南街区プロジェクトに関する都市再生特別措置法に基づく都市再生特別地区の都市計画提案につきまして、本日、東京都において都市計画決定がなされましたのでお知らせいたします。本決定を受け、渋谷駅南街区プロジェクトの具体化を進めてまいります。

本プロジェクトは、2013年3月16日に東横線と東京メトロ副都心線との相互直通運転により地下化された、東横線渋谷駅のホームおよび線路跡地を利用するものです。2017年度の開業を予定しており、渋谷駅周辺地区にて進められている一連の再開発のなか、渋谷ヒカリエに次いで完成いたします。完成時にはオフィス（貸床面積約45,000㎡）とこれらを支援する機能を備え、国際競争力を強化していく“エンタテインメントシティしゅばや”において、クリエイティブ・コンテンツ産業拠点の1つとなることを目指します。

具体的には、フロアあたり約640坪の整形オフィスを高層部に配し、中層部には約200室のホテル、低層部にはホール、商業施設等、仕事と遊びの境界があいまいでカジュアルな渋谷らしいワークスタイルを支援する施設を集結させます。そのほか、約600mにわたる渋谷川沿いの緑の遊歩道を整備するなど、クリエイティブ・コンテンツ産業に関わる方々の創造・発信・交流・育成を加速させる環境を創出していきます。

これらの取り組みのほか、低層部で東急線、東京メトロ線、JR線各線の新設出入口と直接接続され、人の流れを創出するとともに、これまで渋谷駅前としての印象が強くはなかった渋谷駅南側のイメージを大きく変えていきます。

一方で、1927年の開業時より渋谷の発展に貢献してきた旧東横線渋谷駅の記憶として残すべく、国道246号を跨ぐ東横線の高架を駅街区と南街区をつなぐ歩行者デッキとして再利用するとともに、多くの方々から惜しまれたかまぼこ屋根のほか、目玉型壁面、緩やかな線路線形などをデザインとして一部に採り入れていく計画です。

本プロジェクトの概要は別紙の通りです。

以上



(別紙)

本プロジェクトの建物概要

事業主体	東京急行電鉄株式会社および東横線隣接街区の地権者
所在	東京都渋谷区渋谷三丁目21番 外
用途	事務所、店舗、ホテル、駐車場等
敷地面積	約 7,100㎡
延床面積	約117,500㎡
階数	地上33階、地下5階
高さ	約180m
設計者	株式会社東急設計コンサルタント デザイン-キョウ: 小嶋一浩 + 赤松佳珠子 / シーラカンサンドアソシエイツ(C A t)
予定工期	2013年度～2017年度
開業予定	2017年度

計画地



計画建物のデザイン

高層棟の外装は、制震機構、自然換気、日照対策等の機能を組み込んだ白いパネルをランダムに配置することで、デザインと機能の融合と、渋谷らしさを表現しています。

また、渋谷駅街区から渋谷駅南街区へ国道246号を横断する歩行者専用デッキは、旧東横線高架橋を再利用して整備し、かまぼこ屋根や目玉型壁面のデザインなど、東横線の記憶をデザインとして一部に採り入れていきます。



旧東横線渋谷駅舎



全体イメージ（渋谷ヒカリエ方面より望む）



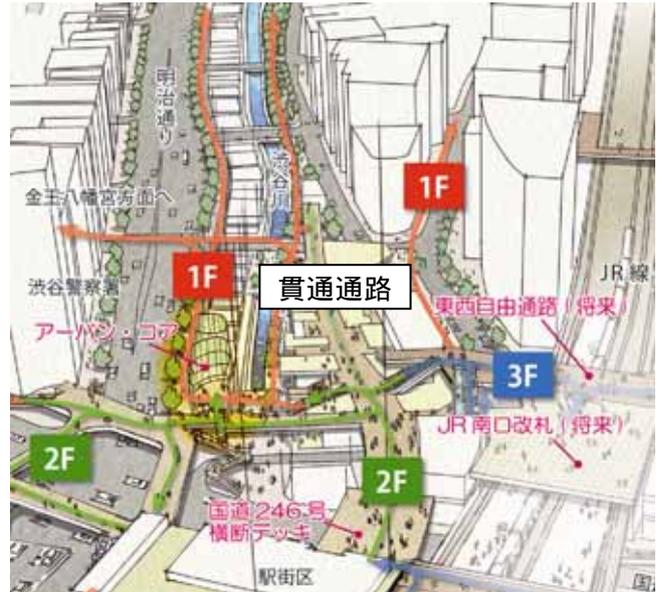
国道246号横断歩行者専用デッキのイメージ

歩行者ネットワークの整備

東急線・東京メトロ線・JR線各線の新設出入口と直接接続されるほか、歩行者専用デッキ、渋谷川沿いの遊歩道等の整備により、地下2階～地上3階のスムーズな歩行者ネットワークを整備します。

南北の歩行者ネットワークとなるビル2階の貫通通路は、東横線をイメージした緩やかな線路線形を描き、国道246号横断歩行者専用デッキと連続して駅街区へとつながります。

貫通通路の緩やかな線形に沿って店舗が連なり、渋谷川の緑と水の潤いも感じることができ賑わい空間を創出します。



歩行者ネットワークイメージ(渋谷駅街区上空より望む)

渋谷川の環境整備(広場と水景施設)

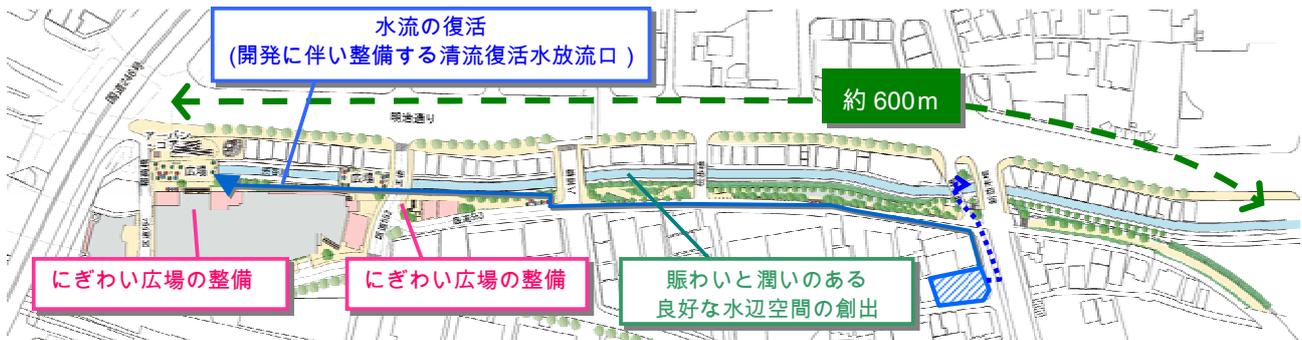
渋谷川広場はにぎわいの広場として、稲荷橋下流側に「渋谷三丁目のゲートとなる広場」、金王橋上流側に「渋谷三丁目のシンボルとなる広場」の計2箇所の広場を整備します。これらの広場の間には清流復活水を活用した「壁泉」とよばれる水景施設を整備し、視覚的にも聴覚的にも賑わいと潤いのある良好な水辺空間を整備いたします。また、約600mにわたって緑の遊歩道を整備し、ツタなどによる護岸緑化、高木の並木により緑と水のネットワークを形成します。



渋谷三丁目のシンボルとなる広場イメージ



壁泉と渋谷川沿い店舗の賑わいイメージ



約600mにわたる緑の遊歩道と渋谷川の整備イメージ